

地域連携協定書

「ひとにやさしいまち・だれもが住んでみたいまち」の実現を目指す美濃加茂市と「行学一体の禅的教育による人づくり」を目指す正眼短期大学（以下「正眼短大」という。）との間において、次の事項について合意し、その証としてここに協定を締結する。

- 1 地方自治を取り巻く厳しい環境と分権時代に対応するためには、「自立可能な行財政基盤」と「市民を起点とした行政運営」の確立が必要である。美濃加茂市と正眼短大は連携し、多様化する政策課題の調査・研究と、その対応策を積極的に講じるものとする。
- 2 特に近年は、社会の様々な問題に対して、自らの力で考え、行動できる人材の育成を積極的に推し進めることが求められている。美濃加茂市と正眼短大は連携し、地域住民等のために、人材育成及び地域貢献を積極的に行うものとする。
- 3 生涯を通して健康で豊かな生活を営むためには、心の健康対策が最も重要な要素のひとつである。美濃加茂市と正眼短大は連携し、地域事業所等の在職者への研修機会の提供及びメンタルヘルス対策を積極的に行うものとする。
- 4 市民と行政との「協働」は、まちづくりの手法として大きな可能性を持っている。美濃加茂市と正眼短大は連携し、市民の生きがい対策と地域活動への誘導等、コミュニティ政策の構築を積極的に推進するものとする。
- 5 情報通信技術の飛躍的な発展とあいまって、子どもたちを中心としたコミュニケーション不足が深刻化している。美濃加茂市と正眼短大は連携し、将来を担う子どもたちを対象に、交流活動の場の積極的な提供を行うものとする。
- 6 美濃加茂市と正眼短大は、この協定に掲げる項目を協働して実施するため、各種計画に係る意見の提言や研修会等への講師の派遣等、相互に総合的な支援を行うものとする。
- 7 美濃加茂市と正眼短大は、上記の取り組みを実施するための協力方法及び成果の利用等について、両者の間でその都度、協議するものとする。

この協定書は2通作成し、美濃加茂市及び正眼短大がそれぞれ1通ずつ保管するものとする。

平成19年 8月 6日

平成19年 8月 6日

美濃加茂市
市長 渡辺 直由

正眼短期大学
学長 山川 宗玄

美濃加茂市と正眼短期大学との地域連携について

美濃加茂市（以下「市」という。）と正眼短期大学（以下「短大」という。）は、本市の目指す「ひとにやさしいまち・だれもが住んでみたいまち」の実現と短大の目指す「行学一体の禅的教育による人づくり」を連携して推進します。

【心豊かな社会の構築を目指して】

～官学連携によるまちづくりに向けて～

現在、団塊世代の大量退職、様々な教育や心の健康問題の発生等により、人生を健康で豊かに暮らすことがさらに求められています。

そこで、本市と短大が相互に連携し、地域住民が新鮮な感動と心の豊かさを享受でき、また、知的・創造的な活動ができる場を積極的に提供することにより、市民生活の向上を図ることを目標とします。

【具体的な連携（検討）項目】

1 メンタルヘルス（心の健康）分野

- 地域事業所等の在職者への研修機会の提供及び講師、指導者等の派遣
- 心の健康講座等の共同開催

2 市民生活分野

- 本市主催講座等への短大講師の派遣及び紹介
- 短大主催講座の開催と市民への積極的な周知
- オープンキャンパスの開催と市民への積極的な周知
- 短大施設の市民開放

3 教育分野

- 小中学校の総合学習等への短大講師の派遣及び紹介
- 短大オープンスクールの開催
- 外国人児童生徒に対する積極的な支援

4 その他

- 短大への市講師の派遣
- 市報等による短大事業等の積極的な紹介
- 専門図書の閲覧
- 災害被災者の受入れ
- 地域連携推進協議会（仮称）の設立